キリスト教たんぽぽ教会　主日礼拝宣教ガイド　2021/1/31

「永遠への種まき」
（ペテロの手紙第一3章1節～7節）

牧師：原　雅幸

序１）生活の二側面

・「食べること」（消費）…生きる限りは必要なもの。楽しむ事は良いこと。
・「種まき」（投資）…未来に備えること。豊かな生活のために必須。
・「種まき」にはリスクが伴うから、信頼（信仰）が関わる問題になる。

序２）「ペテロの手紙第」の一貫したテーマは「生活」

・1:15「生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい」
・2:12「異邦人の中にあって立派にふるまいなさい（美しい生活様式）」
・キリスト信仰者は永遠を見据え、永遠に向かってどんな種を蒔くのか。
・しもべとしての「種まき」は善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶことで、恵みを受け、世界の癒しに用いられることだった。

１）永遠への種まき①「柔和で穏やかな霊」を育む

・1,7 節「同じように」: 2:11~12 にある原則の適用（ケーススタディ）が続いている。「妻（紀元一世紀の既婚女性）」や「夫（紀元一世紀の既婚男性」は引き合いに出されているのであり、そこから普遍化して学ぶ。
→近しい人間関係の中で、信仰面で一致がない場合、どう生きるかが課題
・ことばによる説得は、逆効果になる場合が多い。聖書は平等な夫婦関係を理想としているが、信仰が一致していない状態でなすべきことは「従う」ことである。そこで「神を恐れ（神のご性質に影響されて生きること）」理不尽な状況下を「柔和で穏やかな霊」を育む機会とすること。
・性別に関わらず「柔和で穏やかな霊」を持った人の存在は、そのグループの祝福となる。神が良しとされれば、そこから救いが広がる。
・外面的な飾りは消費されるもの。見た目を良くしたいというのは男女共通だが、永遠への種まきを蔑ろにしてはいけない。

２）永遠への種まき②「ともに生きる」関係を育む

・「ともに暮らす」「ともに受け継ぐ」…「ともに（シュン）」は同じものが共同する状態を指す。（↔メタ）男性中心社会で革命的な教えである。
・相手の弱さに理解を示すが、強さ（価値）も認めて尊敬を示すこと。
・聖書の示す「美しい生活」は助け合う生活であり、独りで何かもするものではない。永遠のいのちは「ともに受け継ぐ」ものである。

結）自分の方が熱いと思うときこそ、へりくだろう

・共に生きることを忘れている人の祈りは、御心に適うものとはならない。

キリスト教たんぽぽ教会　こども礼拝ガイド　2021/1/31

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 「種まき」（作物のことで考えましょう）について、○×クイズをしましょう。

（　　）種をまけば、かならず収穫できる。
（　　）種をまけば、すぐに食べられる。
（　　）種をまかなくても、収穫は得られる。
（　　）種まきをしても、うまく育たないときがある。
（　　）種まきがうまくいくと、豊かに生活できる。

② 永遠に価値のある「種まき」とは、どんな種まきでしょうか。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 自分の生活の中で、「種まき」になっている時間はどんな時間でしょうか。

～教会クイズ（教理問答）～

Q036　「罪のゆるし」を信じるとは、どういうことですか。

A036　罪をゆるされたわたしたちの人生は、□□□□と喜びと□□□□に満たされているということです。聖霊は、わたしたちが□□者として生きられるように助け、導いてくださいます。

□□ヒント□□　詩篇 32:1-5、詩篇 103:1-13、エレミヤ 31:33-34、ルカ 19:1-10、ローマ 7:24-8:3、第二コリント 5:19-21